

明治三十一年十二月二十六日禮拜三第百五十五號
 (第一日五十五號) 每月二回
 明治三十一年五月十四日發行

社説
 ◎反省自覺の時機

論説

◎實行難

雜録

◎西教事情(其六)

(在伯林) 文學士 近角 常觀

安藤 鐵 鷹

改教時報

第五十五號

信界

◎善を嘉みし悪を惡むの情

文學士 本多辰次郎

令音

◎新山吹譚(承前)

文學士 甲南生

社會

◎伊藤内閣の瓦解 ◎經濟界の恐慌 ◎社會黨の組織 ◎時事一束 ◎家畜保護法案 ◎英國感化事業の現況 ◎米國發見者は日本人 ◎紛々録

大日本佛教徒同盟會綱領

- 一、佛教本來の面目を發揮して、各自の信念を確立し、國民の道徳を涵養し品性を陶冶する事。
- 二、佛教の本旨に基きて人道の大義を唱導し精神的結合によりて國民の一致を鞏固にし國家の隆盛を企圖する事。
- 三、佛教護持の責任を全ふし健全なる宗教界を形作る事。
- 四、各宗僧侶を獎勵し其學徳を高めしめ、又從來の惡弊を改善せしむる事。
- 五、公認教制度を調査すること。
- 六、社會問題を講究して、慈善事業を起し、社會の改善を企圖する事。
- 七、佛教の精神に基ける諸種の教育特に普通教育女子教育を獎勵して、善良なる家庭を形作りしめ又社交を融和せしむる事。
- 八、積極的方針を取り、實業道徳を鼓舞する事。
- 九、教界の組織及儀式をして時勢に順應せしむる事。
- 十、社會に於ける一切の迷信を勸絶する事。
- 十一、殖民傳道を獎勵する事。
- 十二、佛教の光輝を發揚し、其感化を普く世界に光被せしむるの策を講ずる事。

政教時報

反省自覺の時機

近頃の新聞紙を讀んで居るものは、誰でも我邦今日の經濟上の有様が頗る戒心すべく恐るべきものであつて、到る所恐慌の聲が盛んであつて京都の關西貿易會社が倒れたとか、商業會議所の頭取がどうしたとか日々喧しく傳へて居るのを必ず知つて居らるゝと存じます、今迄は金持といへばゑらゑらゑの、様に思ふて居たものも追々不信用といふことになり、あべこべに、銀行の役員が、預金者に向ひてどうか一時に澤山な金を引出して下さらぬ様に頼んであるかねばならぬ様になりました一方には氣味の善いとか喜んで居る人もある様であります、それに就ても、若しも今日の有様が繼續したならば、我邦の如きは、國家の生存上是非とも相當の軍備擴張はせねばならぬけれども、國民の生産力は比較的はそれほど進歩して居らぬから、いつも輸入超過の嘆聲ばかりで、遂には我國民の如きは、他日アイノ人の如く北海道の隅に追ひやらねばならぬ様な悲境に陥りはせぬかと心細る弱音を吐いて居る人もあります、まかしながら帳面上の計算ばかりで一家の身代でもわかりませぬ様に、帳簿の上に輸入超過したからとて、それで以て敢て心配する必要はなないのであります、即ち英國や、佛國でも輸入超過といふとは全く無るので

はありませぬ、まかしかゝる財政の裕かなる國に於きましては通例他國へ貸し付けた金の利子又は其金に代るるに物品で輸入せらるゝともありまして、輸入超過は事實上却て懐の温かなると示しまして、決して憂うるに及びませぬ、つまりところは輸入も多く輸出も多むといふと即貿易の盛んなといふことは商業上隆盛なる兆でありまして帳面上に於て少々輸入が超過したからとて、それ相當の實物が國內に入つて居て他日生産の基をなすのであるから何も心配するに及ばぬとは、一卷の經濟書を讀んだもの、皆知つて居るところであります、然るに我國の如き後進國、財政經濟の點からいへば先づ貧乏國といはねばならぬ國に取りましては輸入超過といふことは又大に注目し、憂慮せねばならぬことでありまして、グラント將軍が會て我國に來遊しました時、畏くも天皇陛下の御下間に應じて日本の如き國に於ては輸入超過があつたならば御注意あらんことを要しますと答へました如くに、我邦の前途に於て今日經濟上の有様を回復するためには、皆深く念頭にかけてねばならぬことであります、今我國より外國に輸出する重なる品物を挙げますれば先、生糸と茶、及米であります、然るに此生糸と茶は近來大に不景氣でありますし、又米といふものは氣候の如何により不作がありまして凶作の時却て外國米が入つて來るといふ様なことで、あてにはなりません、此の如き有様でありますから、どうしても輸入、輸出平均がつかぬ様になります、其外に輸出されるものは石炭、銅、摺附木、麥稈ツナダ、陶器、漆器、七寶、扇子、

政教時報第五十四號目次

- 社説 ● 勤勉なる國民たるべし
 論說 ● 十度(文學博士) ● 無料宿泊所の設置(五城人)
 社會 ● 皇孫御降誕 ● 工女虐待等
 雜錄 ● 西教事情(其五) ● 先德餘香(其四)
 信界 ● 我ど我佛(曉鳥)

本誌廣告

- 一、本誌は毎月二回(二日、十五日)發行とす
- 二、本誌は一切前金にあらざれば御注文に應ぜず
- 三、本誌代金は必ず小爲替にて送附の事但し郵券代用の節は五厘切手にて一割増の事
- 四、本誌定價左の如し

一部	一ヶ月	六ヶ月	一年	全
金貳錢五厘	金五錢	金參拾錢	金六拾錢	無送送料
●廣告料五號活字一行(二十七字詰)一回金拾錢				全國

一、爲替振込局は「本郷森川町郵便貯金爲替取扱所」宛の事
 一、爲替受取人名宛は「東京本郷森川町一番地大日本佛教徒同盟會出版部」とせらるべし
 東京市本郷森川町一番地

發行所 大日本佛教徒同盟會出版部

明治三十四年五月十四日印刷
 明治三十四年五月十五日發行
 發行兼編輯人 百目木曾雄
 印刷 清水製本局

酒醬、油、煙草、海草類其他諸般の水産物等であります。殊に我國の雜貨類は到底歐米の市場に持出すほどのものなく先づ、有望なるは南亞米利加位のとであります。然るに輸入品如何と願みれば雜貨類の我が邦に入るものは存外多くありまして小刀、ペン、鉛筆に至る迄外國の舶來品でありまして、中には高襟迄も舶來でなければならぬ様な人もあります。或は洋服地とか「セル」とか「ヘル」とか「フランネル」とか羅紗とかいふものも輸入せらるゝとは夥しむものであります。儲又此「セル」などの原料である羊毛の産地たる濠洲では毎年四千萬斤は羊毛を外國に輸出するようでありまして是が英獨等の工場に於てトップといふものに作られ其残りの滓は更にイルストといふものとなり、帽子とか洋服地とか種々のものに變形して我が邦に入つて來ます。其外砂糖、鐵、ロール、石油、紡績機械、機關車、汽船、小麥、煙草、葡萄酒、諸般の藥種、學術用の器具、大は砲、軍艦より小は「止め針」に至るまで續々輸入せられます。是等のものは孰れも我が邦に出來ないものであります。否出來ても高價につくものでありますから止むを得ず外國から買はねばなりません。その代りに又大に輸出するものを作らねばなりません。然るに年々歳々此輸出するものが餘り増加いたしませぬのに入らぬものはドシドシ入つてくるのであります。明治二十二年に於ては一人に付平均輸出が一圓七十七錢、輸入が一圓六十七錢の割でありまして明治二十五年などは一人に付輸出が二圓二十四錢、輸入が一圓七十五錢といふ好境となり明治三十年になりまると輸出が三圓八十二錢、輸入が五圓十三錢三十一年には輸出が三圓八十三錢、輸入が六圓四十二錢といふ比例にあたりまして此二三年に於て更に輸入は比例上二倍以上になつて居らぬかと考へます。數字が示す如く二十五年二十六年頃は經濟界の順境であつて、此順境に次ぐは二十七八年の戰役を以てしたのであります。此時は大に好かつたのだと考へます。即ち二十四年二十五年あたりは輸出が多く、二十六年、二十七年あたりも尙其間に非常なる大差がなかつたのであります。國家の歳入歳出に見ましても

歳	入	出
廿四年度	一〇三、三三一	四八九圓
廿五年度	一〇一、四六一	九一一圓
廿六年度	一一三、七六九	三八一圓
		八四、五八一、八七二圓

出が三圓八十二錢、輸入が五圓十三錢三十一年には輸出が三圓八十三錢、輸入が六圓四十二錢といふ比例にあたりまして此二三年に於て更に輸入は比例上二倍以上になつて居らぬかと考へます。數字が示す如く二十五年二十六年頃は經濟界の順境であつて、此順境に次ぐは二十七八年の戰役を以てしたのであります。此時は大に好かつたのだと考へます。即ち二十四年二十五年あたりは輸出が多く、二十六年、二十七年あたりも尙其間に非常なる大差がなかつたのであります。國家の歳入歳出に見ましても

一六八、八五六、五〇九圓といふ風になり其後年々歳出が増加いたしました。他に新税源を發見せねばならぬ様になり十年前に比して三倍以上の歳出を要しますから今日此二億萬圓以上の財政をやつて行きますには頗る骨の折れると考へます。此の如く年々國費が膨脹して行きます。充分發達いたしません。國民の生産的事業はそれほどこに充分發達いたしません。佛國などは近來極めて財政が裕かであつて、現に朝鮮に進金を貸さうと云ふ勢であつて近頃借款問題と申して騒

がして居るので太抵分ります。我邦の如きは明治十四五年頃は彼の西南戰爭の結果不換紙幣發行の餘響として經濟上非常に悪くなりまして銀行の破綻等頗る恐慌を起し、續て十六七年の傾向其影響を蒙り、財政經濟上の餘り善くなかつた様であります。西南戰爭の後にも悪く、又日清戰爭の後も此の如く悪くありまして、戰勝に酔ふて居る頃は此の位勤儉を奨励しても殆んど耳に入らぬのであります。或かし今日の如く兎も角恐慌の波動が擴がつて來ますれば、何人も大に注意せねばならぬ様になつて來た様であります。殊に此後更に一戰爭やらねばならぬ場合が萬一起ると假定しますれば、尙更今日の如くヨボ／＼した經濟では兎も駄目でありまから相互に此處一辛抱して大に將來の計をなさねばなりません。十年前と今日とは物價に於ても著しく差があります。大抵の學生が一箇月の學費は平均十五圓以上二十圓に達し尙るれでも足らぬ様に見受けますが一學生でも既に十年前と今と比べますれば全く三倍の學費を要する様になりました。彼等學生の間にも漸々奢侈の風が侵入して居るかと甚氣遣ひの如くあります。昔は吳王劍客を好みしかば百姓瘡瘡多く、楚王細腰を好みしかば宮中餓死多く、城中廣眉を好み四方又半額、城中大袖を好み四方疋帛を用ひといふ故事があります。平氏盛んなれば則六波羅様なるものが流行し足利氏盛んなれば則婆娑羅風なるものが流行いたしました。人心をして腐敗墮落せしめたる事なども考へまして今日も亦こんなとありはせぬかと深く國民たるもの反省を願ひた

かのであります。歴史は常に同一の事を繰り返すもので、百年間には必ず一つ大なる出來事があり、二十年目位には必ず此の如き小波瀾のあるべきことを豫想して差支なぬと思ひます。若しも四千萬人の同胞が一人一圓づゝ一年に貯蓄すると假定しますれば四千萬圓は残り、一人十圓づゝ貯蓄すれば四億萬圓といふ大變な金額が残るのであります。此の如く國民全體が生産といふとに眼を注ぎ大に海外に輸出するものを製造しますれば、我國の將來は、決して失望すべきものでありませぬ。否却て有望であるかと考へます。又學生諸君の如き親から金を貰ふて居るものもつと節儉して勉強せねばいかぬと考へます。實に今日は國民が反省自覺するの好時機であります。彼の自己の爲に國家を犠牲に供する様な奸商を排斥して大に社會の制裁を嚴重にし、以て國運の振張を計りたぬものであります。維新以來我國の進歩は實に長足の進歩ではありましたが、其發達の有様を見ますと、適當なる運動と適當なる營養に依て筋骨逞しく能く肉づゝた立派な身體には成つたものと思へぬ様で、營養も不充分であり又内部の機關が未だ充分發達しなぬ内に外部の方が大に發達した様なもので、商業の機關は多く出來ても工業はそれほどこに發達せず、或は實業は發達しても毫も信用を重んぜぬところから、茶の中に砂を交へたり、或は粗製の羽二重を送つたり、實業道德といふと少しも構はなかつた爲に、全體の機關が充分風雨に堪へる様な強壯な身體の如くならず、實に弱々しむもので假令少しばかりの傷でも、其傷口から絶えず血液が出てし

まつたならば到底其生命を全くするとの出来なる様なもの
 で、私は今日の有様を見て凡て實業家の不道徳といふ傷口か
 ら悪くなつたものと思ひます、況んや此傷口は小さな傷では
 なく、社會一般至るところにあるのでありますから尙更危
 のであります、要するに社會の人々が眞面目に考へ、眞面目
 に働かなるのであります、譬へば銀行の如きは人の粒々辛苦
 して貯蓄したものを預るのであるから非常に着實に、之を扱
 はなければならぬ、然るに今日所々に破綻を起したのを見れ
 ば、皆、株主とか重役とかの不心得より生じたのであります
 から、實に其不徳義なるは其面に唾するも尙足りなる様であ
 ります、或うか國民全體が深く今日の事に鑒み反省自覺し
 て、健全なる宗教に依て、先づ其邪まなる心、不徳なる行爲
 を匡正して、一層着實に、一層眞面目に働かんと祈るので
 あります、實に今日は國民が反省自覺して眞實に國家のため
 に慮るの時機と考へまして、切に讀者諸君の猛省を煩はした
 のであります、

論 説

實行難

安藤 鐵 腸

理論と實際とは自から其の趣を異にす、理論としては極めて
 立派にして耳を傾くるに足るものも、實際としては頗る疎さ
 ものあり、蓋し理論は直ちに理想を言ひ断はすも、實際は理論

の如く直接に理想に達しうべきものにあらず、故に親切なる
 立言者はその理想に達すべき實際の手段、方法、道行を策し
 て理論を構成せざるべからず、而して佛敎界の現勢を觀るに、
 理論家は只理想の一方に偏し、實際家亦目前の成功にのみ汲
 々す、是れ立言者と事務家との枵格益々甚しく遂に兩者の併
 立を見る能はざる所以なり、
 嘗て寺院住職の意氣地なきを憤慨し、僧風の廢頽を指摘し、
 前途有望を以て目せられたる幾多悲壯慷慨の青年は、後ち其
 身責任の地に立つや、忽ち御住職然と濟まし込み、嘗て自か
 ら痛買したる跡をそのまゝ踏襲して、前日の意氣遂に見るべ
 からざるものは何ぞや、又縦し慷慨の氣は前日と異ならず、
 矯正の志須臾も忘れざるものといへども、遂に其の志成らず、
 意ならずも自から快よからずとする弊風に順ふの止むを得ざ
 らしむるものは何ぞや、更に見よ本山の租政を攻撃し、宗務
 所の無方針を痛罵したる者の大志を抱て其の局に當るや、其
 の經綸し、畫策し、實行する所を豫め人の手を借らずして、
 自から攻撃し置けるの觀あるは何ぞや、此等數者の滴例は實
 に清淨なる、高潔なる、明察なる理論と、社會の上に應用す
 るその理論の實行との調和が、甚だしく困難なるを示すの偽
 りなき證左にあらずや、果して然らば局外者が恣に本山當
 路者の施設を攻撃し、徒らに寺院住職を罵倒するが如きは極
 めて無意味のものならざるやを疑はずんばあらず、
 勿論、我輩とても本山當局者の施設多く正鵠を失するを知る、
 又寺院住職の無能にして共にすべからざるを感ず、否我輩の

如きは嘗て年少の銳氣に制せられ、屢々激越の文字を弄して
 時の當路者の忌憚に觸れしこと一再ならず、然れども熟ら考
 ふるに、理論必ずしも實行と一致せず、的確明敏なる理論の
 構成は決して容易の業に非ずと雖、その實行の困難は更にう
 の上を越ゆ、若し實際は必ず理論の如くにゆくものならば、
 世の中の學者は皆大政治家、大經綸家ならざるべからず、然
 れども社會の實際が示す所は却て之と反するは即ちその證な
 らずや、故に理論をして實際と一致せしめんには、理論と實
 際と調和しうべき理論、狹き意味にていへば實行の出來得べ
 き理論を立言して、これを實際家に托せしめざるべからざる
 なり、

今日各宗本山の施設は何れも面白からざる事多し、殊にその
 財政策に於て感服せざるどころ極めて多し、之を攻撃するは
 可し、即ち感服せざることを感服せずといひ、面白からざる
 ことを面白からずと言ふにあればなり、然れども現今の財政
 策を可ならずとせば、之に代はるの財政策なかるべからず、
 現今の各宗當路者と雖、その經綸するところが恐らく最上の
 ものとは思はざるべし、然れども之を廢せんか、新財源の發
 見せらるゝ迄は、其の本山の機關は中止せざるべからず、而
 して其の新財源は如何なる方法に依て、如何なる處に求めん
 か、事務家の苦心は即ち茲に在るべし、一寺の住職も亦然り、
 從來の布教法が必ずしも時世に適合し、現代人心の感化に最
 良なる方法とは思はざるべし、本山に頼て布教に従事せんか、
 自己の理想、識見、希望と背馳せざるべからず、本山を離れ

社 會

伊藤内閣の瓦解

纔に第十五議會を操縦し、辛うして其運命を保ち來りし伊藤
 内閣は、永く其運命を持続する能はず、茲に瓦解をみるの厄運
 に陥りぬ、幸か不幸か
 内外の聲望と重任を一身に負ふて起ち而も政友會を率ゐたる
 伊藤侯か、かくも短命なる最後を遂けしは殆ど解すべきの理
 なさか如し、以て伊藤侯の名望漸く地に落ちたるの兆とすべ
 さか、これもとより間接の原因とみるも大なる誤謬はあらず
 るべし、吾人は内閣組織の當時より深く信を措く能はざりし
 所以のものは、此時局の難に當りて如何なる手腕を振ひ國政
 を處理し閣臣の統一を計るべきやにありき、而して其宣言の
 堂々として大政治家の口吻あるにも拘らず、行政刷新や、財政

整理や、一も實行の効をみる能はざりし、貴族院の反抗に遇ひては蒼遑爲す所を知らず、遂に詔勅の降下によりて漸く其活路を開き餘命を今日迄に維き得たるのみ、伊藤内閣の瓦解は必然の運命にあらすして何ぞや、閣臣の不統一は偶々之か導火線として顯れたる也、伊藤内閣の瓦解吾人之を惜むにあらすとも、旬餘を経過して猶後繼者なく、只元老の何事をかなしつゝあるをみるのみ、内外多事の時に際して、曠日彌久、眞に國家の爲め憂ふべき事也

或は傳ふ伊藤侯再び起つべしと、若し果して然らば侯の辭職は眞に辭職の意なくして權略を弄したるに過ぎざるならむ、之をしも尙國民に忠實なる政治家といふべきか、責任を重せざるの罪は到底免れざるべし、而して侯の名聲益々地に落ちん、吾人侯の爲めに甚だ惜む所也

經濟界の恐慌

大阪經濟界の恐慌一たび傳るや、其餘波各地に及び而して近時其甚しきものは京都に於ける經濟界の動搖なりとす、即ち京都第一流の紳商某等の管理せる、關西貿易會社が突然解散を發表せしとは是なり、之が爲めに同地の銀行は皆激烈なる取附に遇ひ、或は支拂を停止するもの、或は非常の危機に瀕するもの多く、例へば一時を彌縫し得るとするも到底一大破綻は免れざるべし、而して都下に於ける投機業者も漸く危殆に瀕しつゝありと云ふ、經濟界の恐慌は一國經濟界に取りて實に容易ならざる事なり、而れども今日の事あるは投機者流か自

社會黨の組織

社會黨起らむとす、其重なる人は基督教者及二三新聞記者なりとす、彼等は如何なる宣言をなし、如何なる行動に出でんとするか、吾人は暫く筆を收めて彼等の動靜をうかがはん哉

時事一束

伊藤内閣瓦解して未だ後繼者定らず、西園寺侯は病軀を以て辭し、山縣侯も遂に起たすべしとせば何人が其後任に當るべきや、井隈内閣を傳ふるものありと雖も事實上にあらはるゝと難からべし、元老株は頭を鷓めて連りに會議をこらすも、根が狂言辭職なりとせば眞面目なる相談も出來ざるべし、廻り廻りて再び伊藤侯に還るべきか、政友會は此際政友會以外に内閣

家畜保護法案

を渡さるるとを評議せりと云ふ、内閣を以て一私黨の専有物の如く心得るころ、洵に奇怪千萬なる政友會なれ

政友會は渡邊排斥の問題高しと、是も恐くは事實上にあらはるゝと難るべし、萬人非難の聲裡、泰然として、内閣の瓦解を略しても其説を變へざる所、流石に渡邊氏の渡邊氏たる所以ならむ、事や近來の快なり

政友會の紛擾に反し憲政黨の動靜閑として一も聞ゆるなし、暫く羽翼を收むるも可ならむか

一時内外の聳動を來したる露清問題更に聞ゆるとなし、外國の新聞紙は筆を揃へて露國が今日既に其實權を掌握せる満州を、將來再び清國政府に還付するが如きは殆ど期す可らずと論ずるもの多し、而して満州を開放して一國の手に歸せしめず萬國をして等しく其權利を待せしむるの問題顯れんとす、露清問題は未だ俄に終結せざるなり、内閣の瓦解によりて外交の機を逸せざらむとを望む

政界の混沌たるに引きかへ、教育界、宗教界記すべきもの殆どなきが如し、高等教育會議開かれしも、高等學校入學試験規程の改正位は山の山なるべし、眞宗大谷派は紀念法要終ると共に和衷協同の結果、村上師をして近江、美濃、越前、三國を、清澤師をして賀能二ヶ國を巡回せしめ、布教上に力を効さんとす、新佛敎の諸氏はゆにてりわん諸氏と會見し基督教は大舉傳道に若々歩を進め、京橋區内に支部を設け活動を試み、迷へる羊をして其歸する所を知らしめんと意氣よく、經

招きたる結果にして自明の理と云はざるべからず、何事にあらざり姑息手段は永遠の生命にあらざるなり、今の紳商と稱し豪商と云はるゝもの多くは山師的にして眞面目なる資本家にあらざるなり、彼等は財を得るに従て散し、而して財を得んとして一攫千金の念常に絶えず、如何ぞそれ失敗を免るゝを得んや

經濟界の恐慌は彼等に反省を興ふる刺戟劑なり、而れども吾人は彼等に反省を促さんより其自滅を祈るものなり、何となれば彼等は道義的觀念の一片の存するなく、例へば反省の念を兆すも僥倖心の打ち絶ゆるとなければなり、吾人は經濟界の恐慌を喜ぶと共に一刻も速に彼等の自滅せられんとを望む

家畜保護の必要あるは人皆之を認むると雖も、之を實行するもの、尠きは甚だ遺憾とせざるべからず一部少數の論者によりて此問題の提起せられたるとありしも我國の宗教家は冷然たる態度を以て看過せり、而して我政府は此種の法律に關し各國の法制を調査しつゝありと云ふ、甚だ賀すべき事なり、今我國に於て取締の必要ありと認むべきもの、大要を視るに、驅役、運搬、解語、屠殺、觀覽等の各場合に於て例へば(一)牛馬をして過度の重荷を牽かしむる如き(二)牛馬犬豚の類を運搬するに苛酷の方法を以てする如き(三)學術上其他の目的を以て一般動物の生体解剖を行ふ如き(四)牛馬豚犬の類を屠殺するに殘酷の方法を以てする如き(五)豚追及び放鳥射撃の如き又は動物相互若くは動物と人との鬭争等野蠻的遊戯の如き(六)動物園又は動物の演藝場に於る苦痛を興ふべき設備ある如き皆幾分の制限を設くるの必要あるものなり、歐米各國にては夫々取締法の制定あり、英國にては動物の所有者たるに否とを問はず、各種の家畜を慘酷に鞭撻し虐待し、過度に驅役し、濫用し又は苦痛を興ふる者は五磅より多からざる罰金若は三箇月以内の禁錮の刑に處すること、佛國にては刑法第四百五十三條には、他人の飼養する家畜魚類を必要なきに殺したるものは、自己の占有する土地内にて之を犯したる場合は、六日乃至一箇月、飼養者の占有する土地に

て犯したる場合は、二月乃至六月、其他の場合には、十五日乃至六週間の禁錮に處すとし、其他の邦國にても皆罰則の設けありと吾人は速に該法案の制定せられんことを望む

英國感化事業の現況

(大久保利武氏の談話)

監獄改良は社會の進歩に伴ふ必然の結果なるが、近時英國に於て其改善を促したる近因は實に幼年救濟事業にあり、即ち千八百六十六年感化院法を發布し、未だ犯罪に着手せざる不良の少年を收容して、之が救濟扶助を爲さしめんことを企てたり、感化院工業學院は、實に幼年救濟事業の精神に出でたる二方面の手段にして、内務省の所管に屬し、監獄局これを監督す、若し民間の有志にして其設備を爲すものある時は、院長より監獄巡閱官の巡檢を経て、内務大臣に上申し其許可を得て公認感化院と爲すことを得、抑も感化院の事業は裁判所より指定して送られたる、輕微なる犯罪人の行狀を矯むる目的にて、主として恐る可き犯罪たることを自覺せずして爲したる、十二歳より十六歳に至る迄の少年に對し、訓誨を施するものなり、院主は此等一名に對し、一週五シリング宛の補給を受け、收容以來十八箇月間親から之を教育し、而して後三箇月間僧侶又は信用ある有志家に託して、始めて社會に於て相當の職業を得らる、様々旋の勞を採るなり、然るに若し之に反して到底改悛の情なき時は、更らに裁判所を経て監獄に留置せしむることとなす、次ぎに工業院の目的は、感化

院と異なるなく、唯其資格は未だ罪を犯さる、不良少年例へば乞食、浮浪人、孤兒、父母在監中のもの、女子にありては賤業者と同居せるもの、十歳以下にて初めて罪を犯したりと認めらるる者を收容し、大工、靴工、裁縫、牧畜等の業務を習得せしめ、稍や連達して品性も充分陶冶せられしと信せらるるものを會社商店等の需用に應じて糊口の資を得せしむるなり斯の如く幼年者の岐路に彷徨せんとするもの、若くは既に邪道に迷ひつゝあるものを救育して正業に導きたるの結果は、監獄裡の空氣を一洗し、著しく囚人の面目を更めたるは實に感化事業の功績と言はざる可からず、今其最近の成績を見るに左の如きものあり

感化院 (千八百九十九年調)	
入院者 三萬二千九百人 (前年より)	(前年より)
内 千二百九十六人	罪犯なきもの
四百八十八人	初犯
二百〇三人	三犯
四十一人	五犯以上の者
退院者 千三百五十三人	
内 七百六十二人	職業を得たる者
三百人	親戚に引取られたるもの
二十八人	殖民地に出稼したるもの
百五十六人	船員となりたるもの
五十二人	兵役に服したるもの
二十一人	病氣退院
三人	感化の見込なきもの
其他逃亡死亡	
工業院	
入院者 三千九十四人	退院者 四千〇六十三人
内 二千九十五人	職業を得たる者
八百三十五人	友人に引取られたるもの
百十三人	殖民地に出稼したるもの

五百七十三人 船員となりたるもの
百九十五人 兵役に服したるもの
八十五人 病氣
三十五人 見込なくして感化院に送りたるもの
就中最も注意すべきは、英國に於ける感化事業が、其入院者を遇すること極めて嚴肅にして秩序あり、規律あり、體育運動を奨励することとなり、爲めに徴兵合格者を出すことも多く、兵卒としても最も有用なる材を出すことも多く、去年南亞比利加戰爭に際し、兩院より出でたる兵卒、二千五百九十七人に及び、拔群の功績を顯はしたることは、感化事業に附隨して養成し來りたる英國の一異彩と云はざる可からず、併しながら感化工業兩院の成績に就きて考ふれば其目的事業悉く一致して別に分轄する必要を見ざるを以て、法律を變更し將來同一のもの爲す可しとの説盛に唱へらるるに至れり、是に於て觀るも教育の監獄事業に及ばず効果頗る大なるものにして、其關係の密接なるを知るに足らん翻つて本邦這般の施設を顧みる時は覺えず憮然たらざるを得ざるなり云々

米國の發見者は日本人

近着のウエストミンスター、ガゼット新聞は米國を發見したるは日本人かと題し日本の僧徒園田宗惠と稱する人は、日本人が米國を發見したりと認め、且つ發見したるの特證と認むべきものを墨其西哥より携へて華盛頓に歸着せりとの事を報道したるが、尙ほボストン新聞通信員の報道に依れば、園田僧侶は夫の紀元四百九十年の今の墨其西哥と同意義なる海を

隔てたる土地に關してシン、ホーエイと云へる日本僧侶の記述せる記録に従ふて探險をなしたるに、園田は墨其西哥中佛教の勢の及べる多數の證據を認めたりといふ、其重なるものは墨其西哥の十二支十八宿、東洋風の押印殿字の紋標及日本より僅に傳訛したる名稱數百等なりと云ふ、又墨其西哥の殿堂は西藏に於ける如く必ず南面し、又墨其西哥傳道教會の印度人と日本人との間には人種的酷似ある等、凡ての點より見て米國は日本人の發見したるものなるが如しといふ、此探險に對しては墨國古物學者バトルス氏、大に園田に援助を與へたる由、而して園田氏は此發見に對し一書を著し、日本人が米國を發見したる事實を科學界に證示する見込なりと云ふ

紛々録

- ◎米國の發見者は日本人なりと云ふとは、「世界に於ける日本人」の著者渡邊修二郎氏も曾て爾か云ひしことありと思ふ、吾等は早くも園田氏の正確なる考證を接せんことを望む
- ◎社會の上級にある貴族は常に腐敗し、下層にある所謂下等社會は無能語るに足らざる、然らば社會の中心となり、中堅となるべきものは、獨り教育によりて養成せられたる中流人士あるのみ
- ◎我國にありて社會の中心となり、中堅となるべき、所謂中等社會の人士の品格を檢し來れば、其腐敗や腐敗したる貴族にもさく劣りたるべく、些の氣概なく、些の氣魄なく、些の操守なき所、殆ど無能なる下等社會にも遂に遜色あるをみる
- ◎權門に膝を屈し、勢家に腰を折り、黄金をみては叩頭首肯、儘々焉として命惟從はざらんことを恐るもの、これ現今中流社會の常態、惜や極れりと言ふべし
- ◎途上自轉車と人力車と衝突す、自轉車に乗れる人破顔一笑し、再び車に跨り去り、人力車夫も亦微笑して去る、これ迭相呑噬の行はるる世にありては、得かたき美事と云ふべし
- ◎吾怒れば人怒り、吾笑へば人笑ひ、吾泣けば人亦泣く、人をして怒らざらむ泣かざらしむるは我力の及ぶ所にあらず、さ

のなせば能ふ所なり、さればわれ常に笑へば天下常に喜にみつ、かくて此世に
 梅樂に現せん哉
 ◎我物と思へば何さなく惜しき心地せらるゝ也、われに執着心あればなり、此心
 の發動によりて叫ぶ人、泣く人、怒る人、打つ人は現せられ、かく
 して淺ましき罪惡は作らるゝ也
 ◎某あり、納豆を齧ぐを以て業とす、時金壹百圓を東亞佛教會に投ず、何等高潔
 の人
 ◎米のブランド將軍世界を漫遊して歸るや、人の世界の豪傑を問ふものありき、
 將軍答ふるにガンベツス、ビスマルク、カラットストーン、李鴻章を以てし、
 遂に自身を失念せりと傳ふ、これ失念にあらすして英傑にしてはしめて英傑を
 知ることを暗に示したるものこれケ氏のケ氏なる所以
 ◎徂徠曾て天下にわけのわからざるものありとて、地震、雷、天狗の三を數ふ
 地震、雷、の理に至りては小學の生徒向よく之を知る、天狗の正體に至りては
 尚よく知るものなし、然れども岩谷天狗の如き、教育者の天狗の如き宗教家の
 天狗の如きまては文學者の天狗の如き、自惚天狗の鼻衝き合到處見ざるはなし
 而も徂徠夫子自身も天狗たるを自覺せざる所なく、に興味深しとやいはいん

雜 録

西教事情 (緒言、六)

南獨

(續)

近角常觀

次にウエルテンベルヒの首府スツットガルトに至る同國は
 最盛なる新教國にして信仰の深さと獨逸中の最と稱せらる、
 日曜日禮拜の如き廣大なる會堂中殆む空席なきが如し、
 米のポストンに髣髴たるの感あり、漫ろに宗教改革の當時を
 追想せしめたり、而して慈善事業の周到整頓せる獨逸中の最
 と稱せらるゝの所、予等は青年會旅宿に泊せり而してエバン
 ゲルツジユ、フニブリシの牧師ゴッブ氏を問ふ氏靜穩にして周
 密、頗る人物なり氏密に宗教的組織及實際に就て語らる日々

市街傳導者をして案内せしめらるゝ、且つ恰も同所にありて一
 週間傳導會議ありてコンシストリヤルライト出席同國內の有
 志數十人相會し、知名の士諸種の問題に付て演説し、慈善事
 業につきて研究するあり、乃ち之に列するを得たり、且つ同會
 員と共に諸種の營造物を見舞ひたり宗教寄宿舎、監獄盲學校、
 貧民救濟院、貧民行旅者宿泊所、孤兒院、幼稚園、嬰兒預所、
 一々記し難し其最も注意を惹き最も興味を興へたるは青年會
 の組織、日曜學校、オハイムなる社會殖民組織なり、何れも
 是珍しき事にあらざるも同地の如き愉快氣に發達したるもの
 は稀なり青年會は時々青年の會食あり卓上粗食を樂みて嗜々
 として語る、又幼年者の園遊會あり、郊外林檎園の紅顏累累
 たるの處終日運動し、或は遊び或は食ふ、又土曜夜講義あり
 講師熱心に説き滿堂の青年聲を呑むで聽く、日曜學校は市中
 各所に同時に同様の教授をなす、而して予等はゴッブ氏が特
 に貴族等高等なる家庭の小兒を教授するを見る、數百の童男
 童女中數十の女教師を配置して之を分擔し氏か總指揮の下に
 親切に之を教ゆ、特に最も感ひたるは同市郊外オハイムな
 る所あり有志者の出金によりて家屋を新築し之を貧民に貸與
 するの組織ありて而して一定の年限其屋賃を拂へるものは遂
 に其後は之を給與するものにして貧民に家屋を興ふるの目的
 を以て起る、而して中途にして出づるものは無効にして又決
 して他に讓渡すを得べからざる組織なり而して今や家屋益増
 加し數百に上り、宛然一個の市街を現出せり是頗る有益なる
 組織にして大に研究を價するものなり又スツットガルトには

社會的原理に基きて共同生活を營ましむる寄宿舎あり、常に
 一の空室なしといふ之を要するに同所の社會的施設は頗る整
 頓せるものあり、滞在旬日余去りてミンヘンに向ふ
 ミンヘンは乃ち獨逸中舊教の最も盛なるバイエルンの首府
 なり恰も前のスツットガルトと正反對なり王室附の會堂高く
 聳へ、羅馬廷の使節館あり政府教務省に就きて教會誌を取調
 へ市廳に就きて慈善事業を取調へ牧師オステルタルハ氏を訪ひ
 て新教の概況を知り又舊教施設の事業をみる、何時もながら
 舊教の教育感化の巧みなる頗る感すべきものありき千篇一律
 の嫌あるを以て之を畧す (未完)

信 象

善を嘉みし惡を惡むの情

本多辰次郎

是を是とし非を非とし、善を嘉みし惡を惡むの情は、人間に
 は自然に具有すべきもので又無くてはならぬものである、若
 し人が善惡是非の區別もせず、之を好惡する事も知ら無かつ
 たなら、世の中は暗やみとなる、犯罪人などの多くは其性質が
 獐狂好惡といふではなくて、是非善惡の區別が付かぬものな
 のである全く是非善惡を同一視するといふまでで無くとも、
 善を好み惡を惡むの情が鈍い者達である、是等から見ても此
 善を嘉みし惡を惡む情が人に必要であり、社會に缺くべから
 ざる事は明である、併し物事は何によらず中庸を得るのが大

切で、過ぎたるは猶及ばざるがごとしとは、何時何處へ持て
 行ても當て依る格言である、此善を嘉みし惡を惡む情の如き
 も餘り此情が甚しいのは自他に取て損害がある、夫も此善を
 嘉みする情と惡を惡む情と併存するときは害が少い様ですけ
 れど、兎角一方に偏り易いもので、或る人は善を嘉みする情
 が強くて惡を惡む情が薄く、又或る人は惡を惡む情のみ勝て善
 を嘉みすることを忘れて居る様に見受けられる、善を好む情
 の強過ぎるの弊は、重に慈悲心の深い婦人などに多いが、此
 種の人は惣べての事物に善觀する傾が有て、これはわるい
 と思ふ事柄は殆ど無く、悪い方面は一向氣が付ない、夫で少
 し口先で甘い事を言て來る者があると、直に贊成する、所が
 世の中には善人ばかり居るでは無いから、詐僞なをに掛り易
 くて、ヒドイ損害を蒙りおまけに人からは馬鹿などて冷笑さ
 れる様なことが出来る、併し此不名譽不利益が自分だけで済
 めばまだしも結構であるが、他人の詐僞仕事を自分が正直に
 受けて周旋してやつたので、他人へまで迷惑を掛けて怨まれ
 る様なことが起る、けれども此方の弊害はまだ小いけれども
 惡を惡む情の強い人の弊害は實に恐るべきものがある、此情
 の強い人は事物を何んでも惡觀する傾が有て、兎角に人の長
 所や美點が目に着かずして、人の缺點や短所ばかりを見る、
 社會の暗黒なる方面ばかり氣が付いて、其結果として世の中
 が萬事不平でたまらぬ、人の顔を見れば先づ愚痴をこぼし不
 平を鳴らす、知人の惡口を言ふ、惡口で無いにした所が短所
 や缺點を攻撃する、人は誰でも短所もあり缺點もあるものだ、

之を朋友知人の間柄なら御互に忠告し合ひ、又他の人には成るべく隠してやるが義務である、然るに除り悪を悪むの情がヒドイ所から、穩かに忠告することが出来ずして、遂には喧嘩をするやうな始末になる、又他の人に對しても知人の短所缺點を隠してやる事が出来ず、ドシ／＼披露をし攻撃する、ソナナルとコーいふ人を友人に持つのは甚だ危険である不利である、此頃清澤滿之師も遠美近醜といふ事を唱道せられるが、昔西行法師も

來て見れば聞きしに劣る富士の山釋迦も孔子も斯くやあ
るらん

と言はれたが、實に人は油繪の様なもので、遠く離れて仰いで見るときは美麗で結構だが、近付いて審視する時は、随分あらのあるものである、夫でソ一言ふ悪を悪む情の強い人を知人に持たなければ、攻撃せられる事も少くない、ソ一して見ると悪を悪む情の強過ぎる人は、何人に取ても損友であるから其人を朋友に持つことを望む人は無くなる、況して眞の非を非とし悪を悪むのなら少しは過ぎても害は少ないだらうが、其人が自身で判断して邪なり悪なりと思ふ所も眞正の邪惡で無い事も有らう、何人とも固より判断に誤が無いとは言へないから、サアソ一いふ風に考へて見ると、其人は悪を惡みながら、自分で矢張悪を爲す結果となる、何んぞ恐ろしい事では無いか、夫で繰り返して言ふが、善を嘉みし悪を惡むのは最必要なる大切なる事であるが、あまり過ぎたるは害がある、中庸を得たいものである、極端に走る天性の人は

餘程慎まねばなるまい、善惡の判断に慎み、而も其判断も成るべくは内心にたくはへて、猥りに口外せぬやうにせなければならぬことである、これは第一私が後來慎みたいと思ふから、此所に書き述べて同感の方々に御示し申したのでありませす、

今昔

新山吹譚 (ついで)

甲 南 生

詠歌に巧みなりし道灌はまた作詩の道にも明かなりけん、それは彼の平安紀行中に「これも詩にて心はへあはれに旅の心うつしやうぬ」といへるにても知らるべし、されど彼の手に成りし詩の一も見當らざるこそいと惜しき心地せらるれ、たゞ歌は彼の最も好みしところ従てその詠あまた傳はりたれば何人も皆歌人としての道灌を知らざるものなれば何ぞ何ぞ知らん彼は管にこの道の達者なりしのみならず、兵學歴史醫學の末に至るまで偏く涉獵したりしが如し、其居江戸城の靜勝軒には史傳、和歌、撰集、記録、醫方、兵書、數千卷を藏せしこと五山の學僧萬里の記録に見えられたれば戰陣の餘閑花紅き朝月白き夕靜勝軒の窓下悠然机によりて讀書に耽けりたるものならん、關東の要鎮たる江戸城はまた洵に一個可憐なる小圖書館なりしなり、

彼はまた金澤顯時の創建せし金澤文庫が當時打つきたる關東の兵亂によりていたくも荒廢に歸し、あはれまたなき奇書珍籍の散佚せんとするを見、一意是が恢復の舉を講じ、圖書の整理より始めて維持の方法に至るまでのこるかたなくまかなひたれば、日を開するに従ひありし昔の盛時には比すべくもあらぬと優に荒廢の憂を除き散佚の難を免かれしめたるなり、さきには關東隨一の武者として其名の關東に噴々たりし上杉憲實のあるありて金澤文庫の爲めに計るあり今また道灌の計圖するありてこの貴重なる文庫は僅かにうか命脈を徳川氏一統の曉に繋ぎ應仁の大亂に廢絶せし文運をして再び百花研を競ふ徳川文學の上に偉大の貢獻を興へたりしなり、道灌が憲實と共に日本文學史の上に興へたる偉功の如き洵に特筆の價値を有せずや、

若し夫れ足利の季世文學衰頹の極に當りてや天下を擧げて皆殺伐を事とし上は廟堂の紳縉幕府の武將より下民間に至る迄能く意を文事に傾注したるものなく會是ありといへども洵に洵に曉天の星の如く九牛の一毛にだも當らざりしなり、只將軍義尚の如きありて深く文事に心を注ぎ和漢の學何れもなく涉獵せざるなくまた和歌を巧にし、當時第一流の學匠一條禪閣兼良をして孝經及び春秋左氏傳を講せしめたるが如きは洵に暗憶たる景中に一道の光明を放つものといふべくこの他下部兼俱の國學に於ける小槻雅文の漢學に於けるが如き二三者を除きてはまた共に文事を語るべきもの一人もあらざりき、中央の帝都既に斯の如し况んや櫻菴呑噓を是れ事とし小

關私謀反殺逆の絶ゆる閑なき地方に於てをや、管關東の地たる管領の治下に屬し當時京洛に亞ぐの大都會なりしを以て他の地方に比して幾分の優れるものなきに非ざりし、且つや鎌倉幕府の時代に當りて隆盛を極めたる鎌倉五山の文學あり以て明滅の間僅かに文學の餘光を維持するありしを以て稍や見るに足るものなしとせず、
關東文學の維持者として擧ぐべきもの只上杉憲實、長尾昌賢、太田道灌の三者なり、憲實は關東の管領として善政を行ひ永享十一年下野足利の地が將軍始祖の創業地たるを以て足利學校の再興を企圖し學田を寄附し圓覺寺の學僧快元をして之が教授の任に當らしめ遠く諸科の書を明國より購ひ來りて之を納め専心以てそが隆盛に力を竭せり而して其子孫もまたよく其意を繼ぎ之が整備を期したるを以て爾後徳川氏一統文物復興の時代に至る迄全國唯一の庠序なりしなり、將さに廢絶に歸せんとせし足利學校を再興えて之を次代に繼續せしめたる憲實の偉功は確かに日本文學史上の一大美事たるを失はざるなり、長尾昌賢は山内の家宰にして文武の兩道に熟達し大に儒道を好み之を學ばんが爲めに特に使を京師に遣はして藤原清範を聘し白井の城に居らしめ孔子の聖廟を造營し講堂を建築し部下の諸將士をして聽講の席に倍せしめ講筵を開くこと一ヶ月六回の多きに及べりといふ又好んで佛を學び能く其眞意を解す嘗て人に語て曰く學に儒佛の別なし道の存する所は即ち師の存するところと、以て如何に其活學の士にして尋常一様の腐儒と撰を異にしたりしかを想見するに足りなん、只

彼や位置僅かに山内家の家宰たるに過ぎず、多年騷亂の間に
 黨衆したる部下士卒の殺伐の氣風をして翕然として文事に向
 はしむるに於て威權の不足なるものあり、銳意なる彼が獎勵
 を以てして尙且つ其効果を收むるを得ざりしもの洵に彼が爲
 めに惜むべしとなす、さもあらば彼が文學獎勵の功また
 決して没せむべからざるなり、道灌もまた前二者と比肩し敢て
 瑣の遜色なきもの、彼が江戸城に於ける文學にづきて更に少
 しく蛇足を添ふことを得んか蓋し管に彼か地下の幽魂を慰め
 んどに非ず徳川文學發展の沿原を繹ねんとなり、應仁以來打
 つききたる大亂を勘定し大に文運の興隆に力めたる家康は何
 れの所にか其居を奠めたる、そは千代田の松の緑濃かなる江
 戸の城にあらざるや、而して其江戸城はもと何人の計營したる
 ところなりやと問は、正しく道灌の初めて地を相して營みた
 る所ならずや、道灌と家康何ぞ其嗜好と見るところの酷似せ
 るや、

江戸城は當時關東文學の中樞にして、其名遠く京洛の地に及
 び騷客歌人の間噴々として稱せられものなりき、されば超然
 兵亂の世外に立ちて悠々、文學の研鑽に従事したる五山の
 學僧等は、皆道灌と交を絶し居常詩文の往復をなしたりき、
 江戸城の成るを告ぐるや、是等の僧徒は詩文を送りて之を賀
 し、偶々行脚して關東に下るものあるや、先づ道灌の江戸城
 を訪ふて親しく其嚆喙に接し詩文を上下するを以て无上の快
 となせしか如し、學僧萬里(集九)の如きも東國に巡回するや
 まづ道灌を江戸城に訪へり、詩あり曰く

江戸城 今朝始意遼東遊 春多江戸城邊路
 鞍馬迎吾鞭渡頭

と、また城中の靜勝軒の晚景を叙するに曰く

靜勝軒晚眺 隅田河外筑波山 入窓富士不堪道
 一々細井佳境看 潮多吹舟慰旅衣
 と粗朴なる武將と脱俗なる禪僧と松原つゞきに海近き、靜勝
 軒の窓下、白扇倒に懸る芙蓉の峯に對して坐す、眞乎一幅
 の好畫圖何等の幽趣何等の雅興戰陣の腥風も何の邊にか荒
 む江戸城裡清風長へに香し、 (つゞく)

本部廣告

一金壹圓 能登 道上大藏殿

右本會基本金の中へ御寄附を辱うし、感謝の至りに堪へず
 候茲に謹て謝意を表し候也

注意
 一 本誌購讀料未納諸君は何分至急御拂込被成下度、若し未納
 金高不分明に御座候は、往復はがきにて御照會願上候
 一 本誌購讀料は凡て前金の筈に候得共、讀者諸君の便宜を計
 り前金相切候ども其儘郵送致置候午併可成前金盡さざる
 中に御送金願上度候
 一 各地所在の団体にては讀者諸君の便宜上購讀料一纏にして
 御送金被下候は、双方の便利に候間午御手数數此段各地團
 體に御依頼申上候
 一 本誌發行人死亡の爲め前號の發行も意外に遅延に相成重
 ね、讀者諸君に御申譯無之候、茲に謹謝候也
 五月 大日本佛教徒同盟會出版部

再版廣告

文學士 清澤滿之師序
 文學士 近角常觀君著

信仰の餘瀝

全一冊 寸珍美本 紙數百頁餘

右初版賣り盡し候爲め、暫く需
 に應しかね申候處今般再版出
 來候に付陸續御注文あらむこ
 とを希上候

大日本佛教徒同盟會出版部

五月 片山潜 西川光次郎合著 五月十五日發行

日本の勞働運動

頁數三百、定價四十錢郵稅四錢
 編を「勞働運動」各勞働團體の組織「勞働者教育の機關」經
 濟的勞働團體の四に分つ附録及寫眞石版畫二十頁あり

發行所 東京神田 三崎町 勞働新聞社

東京神田區御茶水橋側 光融館
 全本郷區本郷四丁目 文明堂
 全小石川區原町三番地 鷄聲堂

獨逸ストラスブルヒサーヒラー原著
 大學總長ドクトル 日本在大學院文學士加藤玄智抄譯

信仰と智識

全一冊 定價金拾錢 郵稅不要

科學者は曰く宗教は全然迷信なりと宗教家は曰く宗教は科學
 以上にして科學者の窺ひ知る所に非ずと呼嗟科學者の謂ふ所
 果して是なる乎宗教家の説く所果して非なる乎這般の問題や
 實に 人世の最大問題にして 最難問題
 是れ 人世的に非ず而して 信仰智識の關係如
 問題の究竟する所途に 何と云 版着 著者が該博富瞻の學識を以て 斯問
 題を最 深刻凱切 最も 至近平易 にも 解釋せ
 譯文亦明晰暢達歐文にも慣れざるの人と雖
 然れば世の宗教家は勿論何人も刻下科學宗教の不調和上信念
 界の動搖に不満を感せらるゝの士は請ふ一本を座右に藏めて
 信仰對智識問題の根本的解鍵に資せられんことを

● 寫眞趣味あり 趣りな 身も體を健全にす ●

寫眞器械



● 素 ● 營 ● 學 ● 旅 ●
 素 業 術 行
 用 用 用 用

新形舶來品々

正價 附屬品悉皆相添へ壹組金貳圓より參百圓迄

如何なる素人とも直に撮影し得る使用書添付す

開業を望む者無 注文方 御來車の方實驗に

遠國 小包にて送荷す

定價雛形目錄書 郵券貳錢で送る

東京神田區裏神保町六番地九段大通

寫眞 器械 問屋 ⊕ 東京芙蓉館

(電話本局二千四百七十八番)

◎發行所

東京本郷區森川町 壹番地二百四拾壹 號、浩々洞發行

大日本佛敎徒同盟會出版部

精神界

每月一回(十五日) 發行 壹部拾貳錢 壹年壹圓貳拾錢

日五十月五 {號 五 第} 行 發

- 精神界
- ◎精神主義と物質的文明 ◎光は暗處にて認むるを得べき ◎帝王博物館に於ける阿彌陀如來の像 ◎今日、明日 ◎盜む者と盜む者を罰する者
 - ◎佛敎合同論 村上專精
 - ◎人間欲望の極致 虎石慧實
 - ◎犯罪者の信敎狀態並に其緣由に就きて 深川隆士
 - ◎作佛是佛の文 浩々洞註
 - ◎「經濟濟民」 多田 雅
 - ◎智慧圓滿は我理想也 清澤滿之
 - ◎別天地 佐々木月樞
 - ◎綠樹の蔭にて 青 鬼 堂
 - ◎盲樂師 非 無 英
 - ◎落紅 蘇 秀 丸
 - ◎一身の感化 楠 秀 丸
 - ◎光明は智慧の相なり 坂上彰滿
 - ◎心靈界の貧富 伊藤哲英
 - ◎青葉の露 曉 鳥 敏
 - ◎獨逸の暗雲 ◎經濟上の恐慌が與ふる敎訓 ◎渡邊國武氏 ◎都鄙小觀 ◎布哇、京都、東京、奥羽たより等